



# 世界冬の都市市長会 広報誌

日本語特別号  
2007年5月発行

World Winter Cities Association for Mayors

〈世界冬の都市市長会事務局〉  
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168  
e-mail: wwcam@city.sapporo.jp URL: http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/

## 来年1月に第13回世界冬の都市市長会議を開催

### 地球温暖化の現実「溶けゆく北極」に立ち向かう冬の都市の挑戦

グリーンランドの物語“Mother of the Sea（母なる海）”は、自然や環境をどのようにして大切に守っていくかを教えてくれています。

今、氷河が溶け、海面が上昇し、生態系に異変が起きています。冬の都市に住む私たち、ひとりひとりにつけつけられた現実を目を背けることは、もはや許されません。

そして、2008年1月17日から20日まで、グリーンランド・ヌーク市で開催される第13回世界冬の都市市長会議では、「北極圏における気候変動」という大テーマで、冬の都市の市長や代表者が地球温暖化に対する決意を示すものです。今回は、グリーンランド・ヌーク市で開催される第13回世界冬の都市市長会議をご紹介します。



(提供：Greenland Tourism 社)

開催都市／ヌーク市 温暖化に苦しむグリーンランドの首都

## 今 北極圏で何が起きているのか？

今、世界最大の島、グリーンランドの氷が溶けはじめています。夏でも溶けないとされていた氷河や永久凍土の後退が続いています。

そのため、犬ぞりでの狩猟ができない、北極グマが溺れ死ぬなど、生活に深刻な影響が起きてきています。

また、地球規模でも氷河の融解により、海面の上昇、水温の上昇による生態系の変化といった異変が起きています。

これは、日本を含む世界の国々が排出する温室効果ガスによる温暖化が原因と言われています。極北の地と我々の生活は直接つながっているのです。



## 市長会議の内容

- 第13回世界冬の都市市長会議は、
- 冬の都市の市長や代表者が一堂に会して意見交換を行う“市長会議”
- 冬のまちづくりについての専門家や学術研究者が発表を行い、学術交流を行う“冬の都市フォーラム”

- 冬や雪に関連する機材や製品を展示し、様々な冬の技術を紹介する“冬の見本市”
- という、3つのプログラムから成り立っています。(次ページに続く)



「Northern Lights」撮影者：Carsten Egevang 氏  
(提供：Greenland Tourism 社)

市長会議では、「地球温暖化の影響を抑制する手段」や「冬の都市における持続可能な発展」といった議題について、冬の都市の市長や代表者が意見交換を行います。

冬の都市フォーラムでも、地球温暖化に関連したテーマに焦点を当てて、各講演者が日頃の研究成果を発表し、ともに課題解決に向けて学び合います。

北極圏に関係したテーマの例としては、「氷の層は今後どうなっていくのか?」、「西グリーンランド海の資源」、「オゾン層の驚くべき現状」、「永久凍土の融解」、「2020年の世界の気象：危機的な状況か?」などが考えられています。

第13回世界冬の都市市長会議のスケジュールや登録料などの詳細につきましては、ヌーク市のホームページ [www.wintercities.gl](http://www.wintercities.gl) (英語) をご覧ください。また、世界冬の都市市長会ホームページ [www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/](http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/) (日本語・英語) にも、近いうちに情報をアップする予定です。

冬の都市フォーラムへの参加や冬の見本市への出展にご関心をお持ちの方につきましては、日本からの参加を取りまとめております、(財)札幌国際プラザ (Tel: 011-211-2105 Fax: 011-232-3833) までお気軽にご相談下さい。

「冬の見本市」でも地球温暖化対策の紹介を中心に、環境に対する関心を引き起こすような出展者を募集しています。

ヌーク市内の大規模多目的ホール「イヌシビック」を会場に、以下の3つのコーナーを設ける予定です。

- 石油や鉱物採掘企業など環境関連事業に関わる大規模企業スペース
- 冬の都市特有のユニークな商品の取引をしたいと希望するビジネス向けスペース
- 世界冬の都市市長会の会員都市出展スペース

## 北極圏の主要都市、ヌーク市からのメッセージ

人口15,000人のヌーク市は、グリーンランドの首都で、規模は小さいですが、近代的な施設が充実した北極圏の主要都市です。

既に多くの企業がヌーク市にビジネスの拠点を開設しています。最近ではヌークを鉱物資源の発掘や採掘の中心地とすることに関心が集まっています。

わずか数年の間に、ヌークは幅広い分野の芸術や文化が花開き、レストランやレジャー活動に適した多くの施設が出来ました。国内で唯一のゴルフコースと温水プールもあります。1997年には、「カテュアク文化センター」が、コンサートや映画、美術展を開催する会場としてオープンしました。この「カテュアク文化センター」が市長会議の会場となります。

そして、最後にご紹介したいのは、ヌーク市を取り巻く素晴らしい環境です。スキー、セーリング、トナカイ・ハンティング、パラグライダーなど様々なアウトドア・スポーツや、迫力満点のホエール・ウォッチングなど、他では味



わえない体験をすることができ、皆様に充分楽しんで頂けるでしょう。

ヌーク市ではグリーンランド流の歓待で皆さんをお迎えいたします。観光で来られる方、新たに移り住む人たち、そしてビジネスで訪れる方達、目的はなんであっても大歓迎です。私たちは、この第13回世界冬の都市市長会議を「冬の都市賛歌」の機会とすることを嬉しく思います。ヌーク市民一同世界各国のお客様をお迎えできる日を楽しみにしております。ヌーク市に是非おいで下さい。—— Nuummi Tikilluaritsi ! (ようこそヌーク市へ!)



# 世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワークです。以前は、北方都市市長会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回目の市長会議を開催したのが始まりです。2004年に名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりのアイデアや厳しい気象条件を克服する手立てを学ぶことができました。



1982年 第1回札幌会議

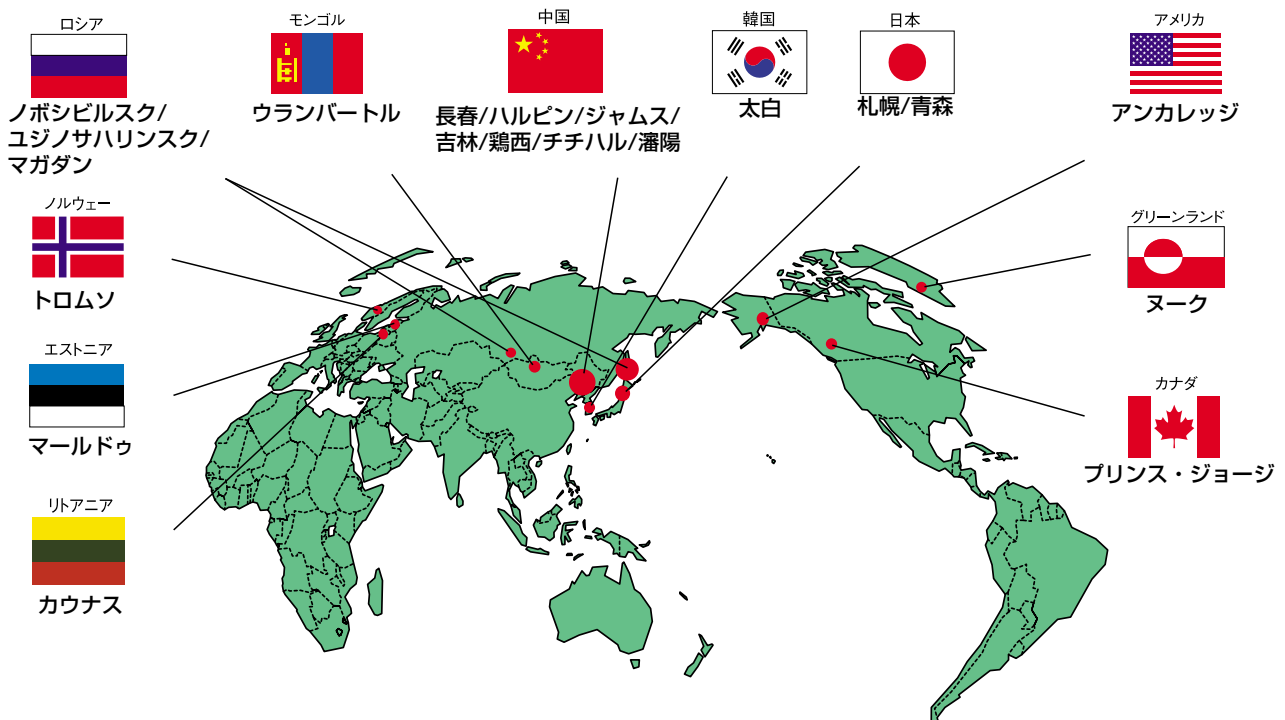
## \*冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準……1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm（8インチ）以上となること。

寒冷の基準……1年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏0度（華氏32度）以下となること。

## ■会員都市 11カ国 20都市（2007年5月現在）



## ■主な活動内容

### 市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで12回の会議が開催されており、都市計画、環境、自然災害、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、“まちづくり”へのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学ぶことができました。

市長会議は、市長自らが各都市の取り組み事例を紹介し、市長同士が膝を交えて率直な意見交換を行う格好の機会となっています。



### 冬の見本市・冬の都市フォーラム

冬の見本市・冬の都市フォーラムは、市長会議と併せて行われる、併催事業です。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団体が中心となって、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行う学術交流の場です。1988年の第3回会議から併催されるようになり、世界冬の都市市長会議は、大きなイベントに発展しました。



### 小委員会

冬の都市の状況や先進事例を調査・研究する機関です。

これまでに、「リサイクル小委員会」、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「テロ対策小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて調査・研究成果をまとめています。

現在は「冬の都市環境問題小委員会（事務局：札幌市）」を設置しており、「地球規模の環境問題」を切り口に、環境教育や自動車問題といった身近な問題から、省エネルギー技術の先進事例の収集までは幅広い調査活動を行っています。また、最新の活動状況を世界冬の都市市長会のウェブページにて発信しております。



### 実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次期市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。毎年行われています。

### 会員になるには

#### 入会手続き

会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

#### 会費

会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額（GDP）を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

#### 会員になると

会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用して様々な分野で個別に交流をすることができます。

#### 申込み先

世界冬の都市市長会事務局 011-211-2032

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のホームページに掲載していますので、是非ご覧下さい。  
(<http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwwcam/>)

世界冬の都市市長会は共に快適な冬のまちづくりについて考える会員都市を募集しています。加入の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。



# 世界冬の都市市長会の近年の取組

## 地球温暖化問題への強い決意

世界冬の都市市長会では、これまで快適な冬のまちづくりに向け、様々な課題について、話しあってきましたが、近年は、国を越えた深刻な問題となってきた環境問題に特に重点的に取り組んでいます。ここでは、近年の環境問題の取り組み状況をご紹介します。

### ■第12回世界冬の都市市長会議

2006年1月15日から18日の間、中国・吉林省の省都長春市において開催された、第12回世界冬の都市市長会議では、「冬季における環境問題」、「冬季における市民生活の課題克服」という二つのテーマに基づいて、参加都市が様々な事例発表を行いました。

特に「冬季における環境問題」では、4つの都市が、それぞれのユニークな環境対策の事例を発表し、参加者は各市の工夫を凝らした取組みに熱心に耳を傾けていました。なかでも、スウェーデン・カルマル市が発表した、木



質バイオマスを使った発電システムは、二酸化炭素削減に大いに成果を上げているとのことで、大きな注目を集めました。

そして、会議の最終日には、地球環境問題は国境を超えて取り組まなければならない緊急の課題であることを参加者全員で確認しあい、参加都市が知恵と経験を共有して環境問題に取り組んでいくことを宣言した「長春宣言」が採択されました（下記参照）。

木質バイオマスを使用した最先端の取組み事例を紹介するスウェーデン・カルマル市

### ■冬の都市環境問題小委員会

「冬の都市環境問題小委員会」はこの長春宣言を受けて、冬の都市における環境問題や先進事例を調査するために設置された機関です。

「地球規模での環境問題」をテーマに、省エネルギーや環境教育、自動車の排気ガス問題などの市民生活に密



着した環境問題を取り扱っていく予定です。

2006年7月に、第1回目の小委員会を開催し、各会員都市の環境問題の状況を調査したほか、グリーンランド・ヌーク市、米国・アンカレッジ市、韓国・太白市の3市が、それぞれの環境対策の事例を紹介しました。

### ■今後の取組予定

次回市長会議が開催されるグリーンランドは、温暖化の影響が深刻な地域です。世界冬の都市市長会では、第12回世界冬の都市市長会議で採択された長春宣言の理念を最大限尊重し、冬の都市が連帯して様々な知恵と経験を共有し、引き続き地球環境問題に取り組んでいきます。

## 長・春・宣・言

地球温暖化に代表される地球環境問題は国を超えて各都市が協力して取り組まなければならない緊急の課題である。寒冷・多雪という気候特性を有する冬の都市では、特に冬の暖房や除排雪、融雪などに消費されるエネルギー量は多大であり、急速な都市化の進展とともに益々地球環境への負荷を著しく高めている。

我々は、地球環境問題への対応として、冬のエネルギー消費量の削減及び環境への負荷の少ない都市活動の実現が、冬の都市に住む者にとって重要な課題であることを深く認識し、各都市が最大限の知恵と工夫をもってこの問題に取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。また、世界冬の都市市長会は、上記宣言の理念を広く世界の冬の都市に訴え、その啓発に最大限努力することを併せて宣言する。

冬の見本市、冬の都市フォーラム紹介シリーズ 第2弾

# 世界初のステンレス系金属箔融雪プレート “Mr. トーカス”

昨年1月に中国・長春市で行われた第12回世界冬の都市市長会議では、冬の見本市が併催され、地元中国及び海外から様々な冬に関連した製品が出展されました。

今回は日本・青森市のNPO法人「北国の暮らし研究会」が出展した、ユニークな出展物「Mr. トーカス」を紹介します。

「北国の暮らし研究会」は、1984年に青森市で大雪が降り、商店街の雪対策を進めるため「雪対策研究委員会」が設置されたのが始まりです。1989年には「北国の暮らし研究会」と名称を変更し、行政と連携して、雪対策運動を展開しており、3年前に新たな融雪素材として、この“Mr. トーカス”を開発しました。

この“Mr. トーカス”は、ステンレス板をベースにした発熱材を使用したプレートヒーターで、たくさんの有利な特性を持った、画期的なものです。用途は、ロードヒーティング、屋根融雪、壁床暖房など、無限に広がります。その特性をいくつか紹介します。

- ・1200℃まで自由に発熱温度を設定することができる
- ・平面で発熱するため、温度分布にバラツキが無い
- ・断線や加熱による破損が無い
- ・AC、DCの電力に対応している
- ・施工、修復が容易である
- ・自由な形状にできる
- ・ランニングコストが従来の電気融雪製品の約3分の1である

この商品は現在、特許を申請しており、国・県・市からそれぞれ新事業分野開拓者認定商品として公認され、大変注目されています。



第12回世界冬の都市市長会議 冬の見本市



容易に設置できる



従来のものに比べて約3分の1のランニングコスト！

## 札幌市とトロムソ市の共同企画

# ノルディック札幌プロジェクト！ *Nordic Sapporo Project*

世界冬の都市市長会の副会長都市であるノルウェー王国トロムソ市が、札幌市で開催されたFISノルディックスキー世界選手権大会を盛り上げるため、2007年2月22日から27日の間、札幌市を訪問しました。

札幌市とトロムソ市は、世界冬の都市市長会を通じて1988年から交流を続けており、今回はトロムソ市長の他、音楽団、サーカス団、観光業界関係者など多彩なメンバーが来札し、FISノルディックスキー世界選手権札幌大会の併催事業として、大通公園や札幌市こども劇場やま



子どもたちに大人気だったトロムソ市のサーカス団「クルタ」

びこ座などで、様々なパフォーマンスを披露しました。

また、観光業界を対象とした観光セミナーも開催し、オーロラで有名なトロムソ市の冬の魅力を大いに、札幌市の観光業界関係者にアピールしました。これまで両市が長年に渡って育んできた冬の都市の絆が、このユニークなプロジェクトを成功に導きました。



観光セミナーを開催し、オーロラで有名なトロムソ市の冬の魅力を大いにアピールした

